

開催地名：石川県能美市	
開催日時	令和3年11月21日（日） 10:30～12:00
開催場所	能美市立防災センター 5階研修室
語り部	菅野祥一郎 （岩手県陸前高田市）
参加者	市危機管理課、市民、関係機関 37名
開催経緯	市役所・関係機関の災害対応力の強化や地域住民の防災意識の向上を目的に、東日本大震災を経験した語り部を招いた災害伝承講演会を実施することにした。
内容	<p>(1) 岩手県陸前高田市という場所について</p> <p>陸前高田市は岩手県の最南に位置しており、隣には気仙沼市が位置している。三陸と言われる陸前・陸中・陸奥に分けられるが、三陸を代表するリアス海岸という地形で波の高さが増し、東日本大震災の被害を大きくした。</p> <p>(2) 津波災害の特徴</p> <p>津波災害には3つの特徴がある。地震と津波を併せて震災と言うようだが、1つ目は沢山の死者が出ること、2つ目は遺体が上がらないことである。今回の東日本大震災で亡くなった方は全て津波だった。1,557人が死亡し、202人が現在でも行方不明であり、ここ数年変わっていない。3つ目は忘れられるということである。地球の裏側からやってきたチリ地震津波は50年以上前の出来事であり、津波は台風のようにめったに来ない。頻繁に来ないことはいいことだが、時間が立ちすぎていることで忘れてしまう。震災から2年も経過すると津波注意報が出て平気で海岸線そばを走っている車がある。コンビニに行くとエンジンやエアコンをつけたままにしている車があるなど、人は鈍感になってしまう。津波は忘れたことにやってくる。このことを忘れてはならない。</p> <p>(3) 津波が発生した時の学校の状況について</p> <p>勤務していた小学校は気仙小学校で、隣の気仙沼市の気仙沼小学校と間違えられる。奇跡だったとか偶然だったと言われる方がいるが決してそうではなく、分かって欲しいことが3つある。1つ目は海と川のそばにあった。2つ目は市の中心部に向かうには川を渡らなければならなかった。3つ目は、学校が避難場所だった。地震が発生した時は用事があって川向うに出ており、地震と同時に学校に戻ろうとしたが、川を渡る為の橋がマニュアルどおりに通行止めとなった。通行止めになっていなければ助かった命も</p>

	<p>多くあったと思っている。通常は橋を渡って5分のところにある小学校が、Uターンや裏道を通して30分以上の時間を要した。学校に到着した時、生徒は地域の住民と一緒に校庭に並んでいた。マニュアル通りに避難をしていたが、周囲の異常な雰囲気から生徒たちを山に上げようと思った。マニュアルには無かったが山に登ることに迷いは無かった。6年生から順番に登るように、低学年から登れば渋滞を起こすだろうと咄嗟に指示をした。生徒の生死を分けたものは何なのか、責任者の指示に付け加えて、「誰よりも早く逃げることを決断したこと」である。</p> <p>(4) 避難所の状況について</p> <p>94人の生徒全員が帰る家を失ってしまった。何日か経つにつれて避難所に迎えに来る家族も増えてきた。正確には迎えに来て帰る家も無いのだから、無事を確かめに来たという方が正しいのかもしれない。一人の女子生徒には最後まで誰の迎えも来ることはなかった。辛い思いをしながら、今でも元気で生きている。</p> <p>(5) 参加者に伝えたいこと</p> <p>震災ではたくさんの若い命が一瞬にして奪われてしまった。巣立っていく子供たちには輝かしい未来があると思っていなかった。でも人生には思いもよらないことが起きる。だから今この時を大事にして、誰の命も大切に作る人になってほしい。</p> <p>時間と共に記憶は薄れていく。ただあの日あの時に東日本で何が起って、どんな教訓を残したのか、防災の心構えだけは忘れないでもらいたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>今回のような話は学校関係者だけでなく一人でも多くの人に聞いてもらいたいと思った。本当に身に染みる思いで聞かせていただき、改めて災害の強さ怖さ、備えることの大切さ感じた。全国各地でお話されることもあると思いますが、また機会が増えれば良いと思った。</p>